

科目名	国際社会福祉論Ⅱ					単位	2.0
担当教員	中神 洋子						
授業形態	講義	開講期間	後期	配当年次	4	授業番号	

### ●授業のテーマ

多文化共生社会を支える学びと実践～国内外の様々な社会問題を問う～

### ●到達目標

1. 多様で異なる文化的背景をもつ人々の生活課題を理解することができる。
2. その生活課題が社会全体の課題であることに気づくことができる。
3. 「多文化共生」の国際・地域社会を構築していくための方法を考える力、実践する力を養うことができる。

### ●学習内容(授業概要)

平和で豊かな国際社会を形成していくためには、環境、経済、医療、教育、福祉など私たちの生存に関するあらゆる分野で国や市民が国境を越えて支え合うことが求められる。多様で異なる文化的背景を認め合い、同じ人間として共に生き合う国際・地域社会を構築するためには多文化共生の視点に立って行動できる人材、すなわちグローバルな視点で社会問題を捉え解決していける人材の育成が必要となる。

世界では1分間に21人の子供たちが5歳前に死んでいく現実がある。貧困、紛争、環境破壊などの諸問題に目を向け、同じ人間として支えよう社会を実現するために国境を越えて行動する人材が求められている。また、日本では多くの外国人が地域社会の一員として生活しているが、外国籍の子供たちに対する民族教育は十分に保障されておらず、「内なる国際化」はまだその途上にある。

本講義では、多文化共生の視点から、世界および国内の環境、福祉、教育等の諸問題を検討し、国内外の多文化共生社会を支えていく人材として必要な知識を学び国際・地域貢献実践者としての資質を養う。

### ●学習内容(授業計画)

《後期》

1. 国際ボランティア論(国際社会福祉論)総論
2. エネルギーと環境～便利で幸せな生活?
3. 人間中心主義への批判～「命」を考える
4. 環境とボランティア～「やれば成功、やめれば失敗」: 遠山さんから学ぶもの
5. 「内なる国際化」の概観～①日本の現状と課題
6. ②在日ブラジル人の歴史、現状と課題～ニューカマーの苦悩
7. ③在日朝鮮人の歴史、現状と課題～オールドカマーの苦悩
8. ④在日外国人学校の学習から得た知見を通じて「内なる国際化」を検討する
9. 多文化共生社会の構築にむけて  
実践事例学習①～国際NPO活動『北東アジアこども交流キャンプ』
10. 実践事例学習②～フォトジャーナリストが見たアジア・アフリカの多文化共生
11. 多文化共生のワークショップ
12. 地球市民になるために～鍵となる教育①～シミュレーションやゲームを通して
13. 身近な地域にある国際協力機関等の見学(例: 国際協力機構・JICA 中部/名古屋朝鮮初級学校/ブラジル人学校/名古屋国際センター/入関など)
14. 地球市民になるために～鍵となる教育②～内なる啓発
15. 授業のまとめとふりかえり～アクションを起こそう! あなたは何ができるか?(想像力・創造力を豊かに、柔軟に...)

●準備学習・事後学習の内容

準備：毎回の授業のテーマごとに、関連したニュースや周辺事情を調べする

事後：毎回のテーマに関するコメントやその感想をまとめ、提出する

●成績評価方法・基準

各トピックに対する個々人の活発な意見（60%）と課題レポート（40%）の総合評価

●テキスト（必携）

それぞれのトピックスに適した資料等を授業中に配布する。

●参考文献／その他

テーマごとに適宜指示する

●履修上の注意

出席および授業への参加意欲を重視する

国際社会貢献実践コースと関連の視覚等を視野に入れている学生は、必ず履修すること。